

第23回

水シンポジウム

2018 in ふじのくに・沼津

入場
無料

富士の麓で水を語らう
水のチカラ 多様な恵みや荒ぶる姿と暮らしの関わりを考える

8月23日 木

シンポジウム [定員 600人]

9:30 ~ 17:00 (9:00開場) 会場: プラサヴェルデ(メイン会場: 1F ホールA)

午前 基調講演①・②、知事挨拶

午後 テーマ別分科会①・②、市民団体による発表、全体会議

■ パネル展示(23日のみ) 場所: プラサヴェルデ 1F ホワイエ



【交通アクセス】沼津ICから車で15分
JR沼津駅北口徒歩3分
【有料駐車場】プラサヴェルデ 西駐車場 159台
東駐車場 446台

8月24日 金

現地見学会 [定員 40名]

県東部地区の自然環境や防災に関わる水辺の視察
(源兵衛川、柿田川公園、伊豆半島ジオパークミュージアム、狩野川放水路など)

9:00 (出発) ~ 17:30 (解散)

集合/8時45分 ①JR沼津駅北口(ロータリー)
9時20分 ②三島市立公園楽寿園駅前入園口(JR三島駅南口徒歩1分)

参加費: 1,600円(昼食代、保険代込)

主催 第23回水シンポジウム in ふじのくに・沼津 実行委員会

(委員長: 清水康行(北海道大学教授))

構成団体: 公益社団法人土木学会水工学委員会

静岡県、沼津市、国土交通省中部地方整備局

共催 (一社)中部地域づくり協会、(一財)日本建設情報総合センター中部地方センター

(一社)日本建設業連合会中部支部、(一社)建設コンサルタンツ協会中部支部

(一社)静岡県建設業協会、(一社)静岡県建設コンサルタンツ協会

(一社)静岡県測量設計業協会、静岡県地質調査業協会、静岡県河川協会



狩野川と花火



三島市 源兵衛川



このシンポジウムは、河川財団による河川基金の助成及び防災研究協会による助成を受けています。

河川基金

このシンポジウムは、市民、学会、行政、民間が一同に会して風水害や自然環境などの水に関する諸問題を議論し、相互理解と情報共有を図ることを目的に開催します。

富士の麓で水を語らう～水のチカラ。多様な恵みや荒ぶる姿と暮らしの関わりを考える～

ふじのくに静岡県は、日本のほぼ中央の太平洋側に位置し、東西 155 km、南北 118 km で、人口 368 万人を抱えています。県土の北側には、世界文化遺産の富士山や南アルプスなどの 3,000m 級以上の山々が連なり、南側には最深 3,000m 以上もある駿河トラフが存在する、急峻で変化に富んだ地形を呈しています。

水は、様々な恩恵と多様な魅力を「ふじのくに」にもたらしています。山地から河川によって運ばれた土砂によって三保半島などの海岸線が形成され、本県を代表する美しい景観を形成しています。大地が育んだ貴重な資産の保全と活用に取り組む伊豆半島ジオパークも注目されています。

また、河川を流れる清らかな流水や霊峰富士が育む豊富な地下水に、古くから地域の諸活動が支えられ、畏敬の念とともに人々の営みと深い関わりを有してきました。さらには、豊かな自然の恵みが実感できる水辺空間は、住む人、訪れる人にやすらぎを与え、そこをフィールドとした環境保全などの市民活動が各地で展開され、人づくり、地域づくりにつながっています。

一方で、伊豆半島の天城山系や富士山麓の年平均降水量は、3,000mm を越える多雨地域であり、降雨は梅雨期、台風期に集中する傾向にあります。平成 30 年は狩野川流域で、死者・行方不明者 853 名、被災家屋 6,775 戸という未曾有の被害をもたらした昭和 33 年 9 月の狩野川台風の来襲から 60 年の節目を迎えます。近年、全国各地で局地的豪雨による災害や浸水被害が頻発しています。先人の被災体験やその後の復旧や対策をふりかえり、これを教訓として、ひとりひとりが、自然界の水がもつ強大な威力にしっかりと目を向けていかなければなりません。

静岡県の水に関わる話題のうち、「多様な水の魅力」と「命を脅かす水の威力」について、ふじのくにの水の持つチカラと人々の暮らしとのつながりを改めて議論して、これからの水とのつき合い方の提案を、静岡・沼津から全国へ発信します。

8月23日 木

シンポジウム

入場
無料

【午前の部】 1F ホール A (メイン会場) (定員 600 人)

9:00 開場

9:30 開会

10:00 基調講演① (55分)

講師：国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント 国際センター長 小池俊雄氏

10:55 基調講演② (55分)

講師：伊豆半島ジオパーク推進協議会 専任研究員 鈴木雄介氏

■パネル展示 (プラサヴェルデ ホワイエ)
県内各市町村や共催団体等の活動の紹介
県内外の主要災害と防災の事例等の紹介
水辺の活用等に関する活動の紹介



■基調講演①
「水防災意識社会の
更なる進化に向けて」
小池俊雄氏



■基調講演②
「伊豆半島ジオパークで
考える、水のチカラ・
人の知恵」
鈴木雄介氏

【午後の部】

12:50 分科会

15:00 (休憩 15分)

15:15 市民団体発表

「わき水田宿川委員会」

15:35 市民団体発表

「三島北高校」

15:55 全体会議 (1F ホール A)

16:55 次回開催県挨拶

17:00 閉会

◆第1分科会 (1F ホール A)

◇テーマ 「富士山が育む豊かな水と人との結びつき」
◇コーディネーター 矢島 啓 土木学会水工学委員会環境水理部会 島根大学教授
◇パネリスト 岩田智也 山梨大学 准教授
知花武佳 東京大学 准教授
山田辰美 常葉大学 名誉教授
佐藤恭彦 三島市産業文化部 農政課課長補佐
太田博文 静岡県 河川砂防局長

◆第2分科会 (3F ホール B)

◇テーマ 「狩野川台風から 60 年、これからの水害への心得と備え」
◇コーディネーター 大石 哲 土木学会水工学委員会水文部会長 神戸大学教授
◇パネリスト 岩田孝仁 静岡大学 教授
小野登志子 伊豆の国市 市長
遠藤雅巳 沼津市消防団 団長
土屋龍太郎 土屋建設(株) 代表取締役 社長
中村浩二 静岡地方気象台 台長
藤井和久 国土交通省沼津河川国道事務所 所長

8月24日 金

現地見学会

定員40名
参加希望者のみ

県東部地区の自然環境や防災に関わる水辺の視察

(源兵衛川、柿田川公園、伊豆半島ジオパークミュージアム、狩野川放水路など)

9:00 (出発) ~ 17:30 (解散)

集合/8時45分 ①JR沼津駅北口 (ロータリー)

9時20分 ②三島市立公園楽寿園駅前入園口

(JR三島駅南口徒歩 1分)

※参加費：1,600円 (昼食代、保険代込)

参加申込方法 締切8月3日(金)必着

◆シンポジウム及び現地見学会 ともに、申し込みが必要です。

FAX
から

下記の申込書に必要事項を記入して、ご送付ください。

Email
から

下記項目をご入力、お申し付けください。

(申込書は下記ホームページ内からダウンロードできます。)

アドレス: suzuki-j@shizuoka-showa.co.jp

- ①参加人数、住所、氏名(ふりがな)
- ②年齢、性別
- ③電話番号、メールアドレス
- ④参加を希望される企画 (複数選択可)
・シンポジウム
・現地見学会 (先着40名)
- ⑤弁当申し込み

■第23回水シンポジウム 2018 in ふじのくに・沼津 HPアドレス

<https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-320/index.html>
(静岡県河川砂防局)

お問合せ：「第23回水シンポジウム 2018 in ふじのくに・沼津」実行委員会
TEL：054-248-5678 (昭和設計(株)内)

◆現地見学会につきましては、万が一に供え、レクリエーション保険等に加入していただきます。■また、参加費は当日現地受付にてお支払いください。
■ご記入いただいた個人情報は、お申し込みのイベントに関連した連絡のみ使用いたします。

FAX専用 お申込書

締切8月3日(金)

シンポジウム・現地見学会へのお申し込みについて、複数の場合は、代表者名と参加者名にご記入をお願いします。

FAX番号 054-247-6658までご送付ください。

参加希望企画	<input type="checkbox"/> シンポジウム <input type="checkbox"/> 現地見学会 <input type="checkbox"/> 両日参加			シンポ ジウム	現地 見学会	参加者氏名
フリガナ		年齢	歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
代表者氏名		性別	男・女	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
住 所	〒			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
所 属 団 体				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
電 話 番 号	()	—	FAX 番号	()	—	
弁当申し込み	<input type="checkbox"/> 弁当注文 (¥600 お茶付) 8/23シンポジウム			個	メールアドレス	